



- 第6回通常総会・講演会
- 平成29年度新役員名簿
- 事務局からのお知らせ
- 委員会活動報告
- 新入会員紹介

■発行/一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 仙台市青葉区上杉1-6-10仙台北辰ビル5F 【TEL】022 (217) 3023 【FAX】022 (217) 3055 【E-mail】misa@misa.or.jp  
■URL/http://misa.or.jp ■企画・編集/広報委員会 ■印刷/ハリウ コミュニケーションズ株式会社



# 第6回通常総会開催報告

去る6月8日（木）第22回理事会終了後、午後2時10分より一般社団法人宮城県情報サービス産業協会の第6回通常総会が仙台市「パレスへいあん」において開催されました。

総会は早坂会長の開会挨拶、宮城県経済商工観光部長の吉田祐幸氏よりの来賓挨拶のあと、早坂会長が議長に選任され、正会員数160社、出席会員数124社（内委任状提出39社）の1/2以上の出席により議事に入り、いずれも提案通り承認されました。

- 第1号議案 平成28年度事業実績について
- 第2号議案 同上 収支決算及び会計監査結果について
- 第3号議案 新中期事業計画（平成29年～31年）について
- 第4号議案 平成29年度事業計画について
- 第5号議案 同上 収支予算について
- 第6号議案 役員改選について



通常総会に引続き、特定非営利法人エルピーアイジャパン理事長 成井弦氏による、「なぜAI、Fintech/Blockchain、そしてクラウドもオープンソースが主流になるのか。そして優位性の築き方は」と題する講演会が開催されました。（講演会の一部別掲記事参照）

その後の230名に及ぶ出席者のもとで恒例の交流会が開催され、菅野理事の開会挨拶、東北経済産業局地域経済部次長の渡邊善夫氏、仙台市経済局次長の遠藤和夫氏からのご来賓挨拶、阿部副会長による乾杯の発声に引続いて懇談に入り、午後6半過ぎ、小林監査役の御開きの辞を以ってすべての行事を無事終了しました。

## 平成29年度MISA新役員名簿

	氏名	所属・役職・(担当委員会)		氏名	所属・役職・(担当委員会)
会長 (代表理事)	早坂 栄二	東北インフォメーション・システムズ(株) 取締役会長	理 事	菅野 直	ハイスリープロジェクト(株) 代表取締役社長
副会長	新 阿部 嘉男	(株)SRA東北 代表取締役社長		佐々木 卓也	(株)トレック 代表取締役
	奥瀬 伸一	東北NSソリューションズ(株) 代表取締役社長		佐藤 麻美	(株)Minoriソリューションズ ビジネス開発アドバイザー
常務理事	穴沢 芳郎	(一社)宮城県情報サービス産業協会 事務局長		鈴木 利信	(株)アテネコンピュータシステム 代表取締役社長
理 事	荒井 秀和	(株)日進サイエンティア 代表取締役会長		中嶋 巖	(株)ナナイロ 代表取締役会長
	大森 清視	(株)ピッツ 取締役	増子 良一	イートス(株) 代表取締役会長	
	小野寺 満明	(株)システムロード 取締役社長	新 小林 貴之	(株)ラネックス 代表取締役社長	
	小原 正孝	テクノ・マインド(株) 代表取締役社長	田代 紀生	システムニコル(株) 取締役	
	新 木村 智	(公財)仙台市産業振興事業団 副理事長			

(敬称略 各五十音順)



# MISA 第6回通常総会 会長挨拶

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 会長 早坂 栄二



第6回通常総会開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は大変ご多用のところ、御来賓の皆様をはじめ多くの会員の皆様にご出席いただき誠に有難うございます。

平素より当協会の活動に格別のご支援ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日の総会では「平成28年度の事業結果及び収支決算等」についてご審議いただくとともに、新たに策定しました「中期事業計画」そして「平成29年度事業計画及報び収支計画」についてご報告いたします。また今年「役員改選」についてお諮りいたしますので、ご承認いただければと思います。何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、29年度の我国の景況ですが、政府の諸政策の推進等により、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環が進展する中で、先週には、日経平均がひさしぶりに20,000円を超え注目を浴びたところであります。

しかし、アメリカトランプ政権の経済政策の不透明感などから、海外経済の不確実性もあって依然予断を許せない状況でございます。

東北においては、雇用・設備投資の改善が続く中で、一部に弱さが見られるものの、各種政策の効果や復興需要を背景に景気が緩やかに回復していくことが期待されております。しかし中小企業が大半を占める地方においては、海外景気の下振れリスク等にも大きく左右されることから、留意が必要と思われまます。

このような状況の中での、われわれ情報サービス産業を巡る環境をあらためて整理したいと思います。

一言で申し上げますと、「世界各国でデジタルビジネス革命が進展して、国内でも情報サービス業界への期待が高まっている」ということでしょうか。

皆さまよく御存じのことですが、キーワードで補足しますと、

- ①スマートデバイスやSNSの急速な発展
  - ②クラウドサービスによるリソースの共有、投資の低廉化、スピーディなビジネス展開の実現
  - ③IoTが人・もの・ビジネスをつなぎ、様々な大量データの収集分析、それらに基づく新たなマーケティング等を可能にし、消費、生産の基盤になった
  - ④そのようなすべてのデジタル化で、新たなビジネスが創出される一方で、既存ビジネスの破壊的変革が予想される
  - ⑤またAI等の技術の飛躍的な革新により、この「革命」は新たな局面も考えられます。
- 中長期的には、「シンギュラリティ」が起きると予想されています。

★「既存ビジネスの破壊的変革」の例として。

よく引き合いに出るのは「自動車の自動運転」の産業構造へのインパクト。これも耳にされていると思います。

- ・自動走行やウーバーで、自動車所有の必要がなくなる
- ・自動車メーカーのみならず、幅広い関連製造業の売上激減
- ・ディーラーおよび運転手の必要性なくなる
- ・保険、ローン業界も売り上げ激減。

すなわち、自動運転というソフトひとつで社会構造が変わりますし、単なる効率化ではなく、本業そのものが破壊的ダメージを受けかねません。

「破壊的変革」はフィンテックの金融業界、デジタルグリッドのエネルギー業界も同様とされています。

ソフトウェアはすべての産業の基盤といわれますが、ある意味、その影響度合いはますます大きくなります。

いずれにしろ、このような「デジタルビジネス革命」の動きを受け、政府や企業経営におけるいろいろな戦略でも、改めて「進化するITの高度活用によるビジネスモデルの構築・創造が不可欠」と位置づけられており、お客様の意識も、まさに「攻めのIT」ということになってきています。

一方、現実の話、お客様のIT投資の多くは、依然として既存情報システムの保守、改修であって、大半の割合を占める「守りのIT」に強みを持つ事業者へ期待もまた大きく、これら投資は震災で大きく落ち込んだが、水準はようやく戻ってきている状況にあります。

このような両面の環境認識を踏まえ、われわれ地域の事業者としてどのように対応すべきか。

まず、お客様が期待する「守りのIT」については、我々の現在の強みを生かし、競争力をさらに維持、強化して、しっかり地元根差した産業としてビジネス展開を行う必要があります。

一方、今後の「デジタル革命、攻めのIT」に対しては、地域業界として地域の先頭を歩む使命がありますし、そのためには、様々な要素技術を身に付け、組み合わせによるさらなる技術の向上とサービスの実現、従来の枠を超えたビジネス連携が重要ではないかと考えます。

これらに具体的に、的確に実現するためには、地域として「個々の企業単位では対応できない諸課題に、枠を超え結束して取り組んでいく」ことがますます重要であり、MISA（宮城県情報サービス産業協会）として、新たな対応・強化が求められていると認識しております。

そこで、今年度は新たな「中期事業計画(29～31年)」を検討・取り纏め、またその第一年度として「平成29年度事業計画」を策定いたしました。

事業の実行、運営を担うのは、現在非常に活発に活動している各委員会です。これからは、個別の活動に加え、中期事業計画に示された新たな課題解決のために、委員会が連携する検討も必要と考えます。

是非とも会員の皆様には、積極的に委員会に参加して頂きまして、協会に加入するメリットを確実に享受いただければと願っている次第であります。

皆様方からの一層のご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本日は、この本総会終了後に、エルピーアイジャパン理事長の成井様から「なぜAI、Fintech/Blockchain、そしてクラウドもオープンソースが主流になるのか」と

いうテーマで講演をいただくこととしております。

大変興味のあるお話であります。成井様にはお忙しい中、誠にありがとうございます。どうかよろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、ご参集の皆様のますますのご繁栄をご祈念申し上げ、開会にあたっての挨拶といたします。

## MISA 第4回通常総会 来賓挨拶

宮城県経済商工観光部長 吉田 祐幸 様



早坂会長を初め会員の皆様方には、日頃から県政の推進に格別のご理解・ご協力を賜り、この場をお借りして感謝申し上げます。

ITは、我が国の経済再生や地域社会の課題解決に貢献する重要なツールとして位置づけられているところでございます。本県といたしましても、IoTへの対応など、新たな技術導入による産業高度化の推進や情報サービス産業と県内製造業などとの融合を図るため、情報産業振興に関する業務について本年度から経済商工観光部で行うこととなりました。経済商工観光部では、富県宮城の実現に向けまして、さらなる企業誘致の展開と誘致企業と県内企業との取引拡大による産業集積を図るとともに、宮城県中小企業・小規模事業者振興基本計画に基づく創業や経営革新などの施策について、平成27年度決算では、1,100億円の規模で展開するなど、各種施策を積極的に展開し、様々な主体との連携のもと、早期の産業の復興を目指しているところでございます。

これらの取組において、ITは欠かせない技術と位置付けておりまして、県内情報サービス産業の皆様にはその担い手として大いに活躍していただく事を期待しておる次第でございます。一方で、県内情報サービス産業では、長期的なIT技術者不足、人材の首都圏流出など、情報サービス産業を支える人材の確保が課題だ

と伺っておりまして、産業人材の確保は共通の課題として捉え、みやぎ発展税を今後とも活用させていただきながら、新たな人材確保策を県としても打ち出してまいりたいと考えているところでございます。

今後とも、貴協会及び会員企業の皆様とは、震災復興、富県宮城の実現に向けた取り組みの重要なパートナーとして、なお一層連携を図ってまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。

また、今年は伊達正宗公が450歳を迎える年でもあります。旧暦では8月ですけれども、9月5日が誕生日となっております。私ども県は仙台市、仙台商工会議所、河北新報等各社様と一緒にプロモーションを進めているところでございまして、私もつけてまいりましたが缶バッジを作成したり、ロゴマークをPRさせていただいたりしております。こちらは「むすび丸」バージョンですけれども、伊達正宗公バージョンもございまして、第18代御当主様にご相談したところ、大変いいモノを作っていたいただいたとお話をいただいたところでございます。ぜひ皆様にもご活用いただきますよう改めてお願い申し上げます。

結びになりますが、貴協会の益々のご発展と本日も参会の皆様のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。

## MISA 第4回通常総会 来賓挨拶

東北経済産業局地域経済部次長 渡邊 善夫 様



MISAの皆様には、日頃いろいろな施策につきましてご協力いただき、改めて御礼申し上げます。

経産省の施策で、最近IoTというキーワードがございます。産業界にとってIoTは対応せざるを得ないキーワードでございますけれども、私がいりいな情報を見させていただくと、毎日のようにIoTに関する各省庁や各団体からのセミナー・シンポジウム、事例発表等が開催され首都圏での積極的な対応が聞こえてきてござい

ます。

東北地域においてはどうなんだろうかということで、昨年にモノづくり分野、商業・サービス分野、農業分野等での導入事例を調査させていただきました。その結果、やはりIoTにおいても情報格差があるということで、今年4月、当局部内にIoT担当を明確にさせていただきました。今後皆様方のご協力を得ながらそ対応してまいりたいと存じますのでよろしくお願いいたします。



また、IoTについては、宮城県、仙台も推進ラボに加盟いただいておりますが、東北ではまだまだ少なく、東北6県全体に皆様のお力をお借りし広めていければと思っております。

一点だけPRさせていただきますと、「地域未来投資促進法」という法律が5月末の国会で通りまして、6月2日に公布させていただきました。今、これに関する政省令を準備中でございます、これの完成を8月1日を目標とさせていただきます。これに基づいて各県、市、企業の方たちが優遇措置を活用し、地方での設備投資を促進していくことを狙いとした法律ですが、9月くらいには全国から第一号案件を出すこととしております。当然東北においても同じようなスケジュールを進めなければいけないということで、関係者への情報提供、案件発掘に

努めているところでございます。IoT投資というのも、ソフトウェアだけでなくハードとの連携もありますし、川上から川下まで多くの業種を巻き込むということで、期待されている分野だと思っております。

政府の狙いとしては、設備投資が促進され、それに基づいて賃金が上がって消費が拡大され、この二つでGDPを押し上げアベノミクス実現するための地域未来投資促進法でございます。今月27日には仙台、28日は盛岡、そのほか関東でも説明会を予定しておりますので、是非ご聴講いただき設備投資の押し上げにご協力いただければと思っております。

それでは、MISA会員皆様のご発展と、ご参会の皆様のご健勝・ご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

## MISA 第4回通常総会 来賓挨拶

仙台市経済局次長 遠藤 和夫 様



本日は、通常総会が盛会の内に終了したとのこと、心よりお慶び申し上げます。私は、3月まで4年間東京の方におりまして、国の方では首都圏一極集中化を何とか解消したいということで、地方の活性化、地方の産業集積に今一生懸命力を入れております。特に皆様の関係するIT産業とか、第4次産業革命と言われている分野の方々は早くから地方に目を向けいろいろな取り組みをしているのかなというふうに私個人的には考えていました。

地方の展開ということを皆さん考えるときに、やはり仙台・宮城というのは東北の中核でもありますし、若い人も大変多いということで必ず候補に残ります。地方展開の皆さんは8~10個くらい最初に候補に挙げるので、その中に必ず仙台・宮城が入っています。

ところが私が最初に行った4年前くらいは、大体決勝に残るか残らないかで落ちたり、決勝に残っても最終選考で落ちたりと、コールセンター以外のIT系はなかなか実績に結び付かない時期でありました。私は、IT業界のことに詳しくはないのですが、一つ気がついたことがありまして、MISAという単語を最近多く聞くようになりました。なんでそんなにこの単語を東京で

使われる方が増えてきているのかなと疑問はありますが、逆に言うと、MISAの強みがかかなりアピールされているのではとつくづく実感しております。

地方に向かって企業が移っていく、もしくは地方で産業の集積が進んでいく中で、これまで西の方に風が吹いていたと思うんですが、東京にいた限りでは、去年、今年と、こちらの方に風向きが変わっていることを実感したところでございます。

MISAは、もう21年という長い期間活動してこられて、地域の貢献に尽力されておられますけれども、風が吹いているこの時期にもうひと踏ん張りご活躍いただければと思います。また、仙台市としても一生懸命サポートしてまいりたいと思います。

私が登壇したもう一つの理由は、今度7月1日、2日とゼビオアリーナでドローンレースが行われます。入場料は1000円かかりますが、皆様に是非見に来ていただければと思います。

最後になりますが、MISAの益々のご発展そしてご参会の皆様のご発展・ご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。



## 第6回通常総会記念講演(一部抜粋)

“なぜAI、Fintech/Blockchain、  
そしてクラウドもオープンソースが主流になるのか。  
そして優位性の築き方は”特定非営利活動法人エルピーアイジャパン理事長 **成井 弦 氏****(AIとオープンソース)**

AIの開発というのは最初からオープンソースのソフトウェアが使われていました。

AIという言葉を提唱したのは、当時MITで教鞭をとっておられたジョン・マッカーシーという方で、Lispという言葉も彼が作られました。Lispというのは、AIの分野において1980年代にもっとも使われた言語でなおかつオープンソースにしたということです。今オープンソースはLinuxとかいろいろありますが、いろいろな人のコラボレーション、協力で作られたもので、それなりに大きなソフトのプロジェクトというと多分このLisp言語ではないかと思えます。

そして、第2次AIブーム1980年代、このころ、通産省が当時のお金でなんと570億円の費用を投じてAIシステム、エキスパートシステムの新しいプロジェクトを立ち上げたということです。このプロジェクトで使われたコンピュータは大体、私が当時勤めておりましたDECの「システム20」というのが使われ、一部は「ダックス」と呼ばれるコンピュータが使われていました。従って第2次AIもオープンソースのLispが使われていたわけです。AIというのは、ディープラーニングを使用するものが多いんですが、実はディープラーニングをやろうとするときのソフトウェアのプラットフォームは大半がオープンソースです。大半がオープンソースのLinux上で動くソフトであるということです。

Googleが提供しておりますテンサーフローというも

のがありますが、それもオープンソースであり、Googleのコンピュータは全てLinuxで動いているということです。従ってAIの分野というのは昔からオープンソースであるということです。

私がいたDECのユーザー会があるんですが、DECUS(digital equipment computer society)というふうに呼んでおりました、いろんな方がDECのコンピュータ向けに作ったプログラムを無料で登録し、ソースコードを無料で交換できる、そういう今で言うオープンソースの考え方を一番最初に本格的に利用した組織ではないかと思いますが、そこにLispが何と1964年に登録されていたということです。そして、もし現在ディープラーニングを勉強されたいというならば、実に多くの本がありますが、分かりやすい本の一つがユニシスに勤めておられた方が書かれた本で「初めてのディープラーニング」があります。この中に「Caffe」というディープラーニングをやるためのソフトウェアのプラットフォームがありますが、その演習もLinuxを知っていることが前提になっています。ですからディープラーニングをやるにはオープンソース、OSはLinuxを理解していないとダメだということです。

次に金融機関とAIの話ですが、米国の金融機関で「バンカーズ・トラスト」というのがありまして、そこが初めて人工知能を利用したディープラーニングシステムを開発しました。そしてその名前はたしか「リーモス」と呼んだと思いますが、私がいたDECはその「リーモス」を早々と買ひまして、それをベースにいろいろな都銀の例えば三菱銀行のディープラーニングシステムをエキスパートシステムとして開発しました。ではどうしてエキスパートシステムなのかというと、ディーラーの人がどうやって債権を売ったり買ったりするのかというノウハウを全部If-thenに置き換えて、それをコンピュータに移すことによってコンピュータがディーラーと同じく取引する、そういう専門家の知識ベースのAIシステムですのでエキスパートシステムと呼ばれており、現在も多く使われています。もっとわかりやすく言うと、皆様の会社でも







お客様のある種の仕事をIf-thenに置き換えていくことが出来る物は、AI化が可能であるわけです。例えばお医者さんが患者を診て、熱がある、喉が痛い、鼻水が出る等問診していくとみんなIf-thenのチェーンに繋がって行くわけです。その類の物は全部エキスパートシステムに乗ると考えてよいと思います。

ただ、現在のAIというのは、ディープラーニング、マシンラーニングということで、これは一寸違って、ネットから膨大なデータを集めて特徴を抽出するというAIですので、エキスパートシステムとは違い、ディープラーニングをベースとしたビジネス展開は簡単ではないということです。

AIビジネスの特徴は、アプリプログラムの1%にAIを利用しても99%利用しても、AIを利用したソフトまたはシステムということが出来ます。従って、ほんの1%しか使われていなくとも、お客様は何となくシステムの中核の部分に全てAIが利用されていると誤解しやすく、売り手によっては非常に都合の良い誤解であり、そういう世界でもあります。

ただ、マーケティングの観点からは、AIという言葉は非常に強力です。強力が故に過度の期待が生まれて、現実との乖離が大きくなって第2次のAIブームが去り、多分現在の第3次AIブームも去ると思います。しかし、AIの技術の進歩と利用は着実に進んでいきます。ですからIT業界におられる皆様方も是非AIをやられた方が良いのではと考えております。

### (ソフトパワー)

我々が組織を動かすときに、通常、部下又はパートナー企業に対して命令権や指揮権をもって相手に対しお金を払って人や組織を動かす、こういうことをずっとやってきているわけです。そういう形での マネージメント力をハードパワーと言っています。これに対して相手に一

切の指揮権を持たず、お金を払わずして組織を動かせる力をソフトパワーと言います。

実は、オープンソースの世界を動かしている多くの企業または個人はソフトパワーを持っています。ビジネスの世界において、相手に対して指揮権を持たず、お金を払わず、自分の思うように動かしているということです。Rubyという言語をご存じだと思いますが、開発者は「まつもとひろゆきさん」、意図的に平仮名で自分の名を書かれるんですが、彼は世界中のRubyを良くしてくれる人たちに対して一切の命令権を持たず、お金を払わずしてRubyをどんどん良くして行っています。

今、Linuxも良くするために貢献している人たちは5,000名いると言われていています。それに加えてNECさん、富士通さん、日立さん、IBMさんのような、いろいろな企業がいるいろいろな目的でLinuxをどんどん良くして行っています。開発者のライナス・トーバルズは一切命令権を持たず、プログラムを提供してくれる方々や会社に対してお金は一銭も払っていません。まさにソフトパワーということです。

スティーブ・ジョブズは生前、iphoneを市場に投入して、たった半年で30万のiアプリをソフトパワーで開発してしまいました。どうやったか、iアプリを開発するための「Software Development Kit」、SDKと言いますが、これをタダ同然でばらまいて、皆さんこのSDKを使ってiアプリをどんどん作ってアップルに送って下さいよ。我々、iTunesで世界中に売ってあげますよ。売れた暁には、売り上げの30%はアップルがいただいて、残り70%は皆様の銀行口座に振り込みますというやり方で、80万の開発者に対して一切指揮権を持たず、お金を前もって払うことなくしてiアプリを開発しました。

現在、多分iPadも含めて200万くらいのiアプリがあるんじゃないかと思いますが、全部ソフトパワーで開発しちゃっています。こういうことが出来る彼はオープンソースのことを良く理解していたということです。



# 『モノづくりフェスタinみやぎ2017』出展レポート

株式会社 SRA 東北 提供

8月4日～8月6日の3日間にわたって夢メッセみやぎで開催された「モノづくりフェスタinみやぎ2017」に宮城県情報サービス産業協会（SRA東北）が初出展しました。



## 「モノづくりフェスタinみやぎ2017」とは？

モノづくりの楽しさを体験してもおうちで開催されているイベントです。洋裁、金属加工、タイルなど様々な種類のモノづくり体験ができ夏休みの自由研究にも役立つ内容になっています。その中で宮城県情報サービス産業協会（SRA東北）は、新しいテクノロジーである「人工知能」と「ロボット」を展示しました。」

## 「展示コーナー」

1. 「Pepperさんとジェスチャークイズで遊ぼう」
2. 「レーザービームを体験しよう！～ロボホンくん～」
3. 「3分プログラミング体験～Sotaくん～」
4. 「人工知能saràと会話してみよう」
5. 「Musioくんの英語教室」

## 「イベントに参加しての感想」

県内各地から会場を訪れた大勢の小中学生のみなさんにこれからの時代に欠かせない「ICT」をより身近に感じてもらったのではないかと思います。3日間で約1500人の体験者を超えるほどの盛況ぶりでした。東北の地から将来の日本を支えるたくさんのITエンジニアが誕生すればと思います。





## 労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン変更のポイント

### 労働時間適正把握基準（平成 13 年 4 月 6 日付基発第 339 号）

使用者には適正な労働時間管理を行う責務があり、使用者による現認等の方法を原則しつつ、自己申告により労働時間を把握する場合は以下の措置を実施することとしている。

- ①自己申告導入前に適正に自己申告を行うことなどについて労働者に十分説明すること
- ②自己申告の労働時間が実際の労働時間と合致しているかを必要に応じ調査すること
- ③適正な自己申告を阻害する目的で労働時間に上限を設けるなどの措置をしないこと



### 使用者向けの新たなガイドラインを策定(内部通達ではない)

### 労働時間適正把握ガイドライン（平成 29 年 1 月 20 日策定）

- 自己申告により労働時間を把握する場合の措置を以下のとおり拡充
  - ①自己申告を行う労働者のみでなく、労働時間を管理する者に対して自己申告制の適正な運用等ガイドラインに基づく措置について、十分な説明を行う。
  - ②自己申告により把握した労働時間と、入退場記録やパソコンの使用時間等から把握した在社時間との間に著しい乖離がある場合には実態調査を実施し、所要の労働時間の補正をする。
  - ③労働者が自己申告できる時間数の上限を設ける等適正な自己申告を阻害する措置を設けてならないことを改めて示し、さらに、労働者において習慣的に過少申告が行われていないかについても確認する。
- 最高裁判決等を踏まえ、労働時間の考え方を明示
 

労働時間とは使用者の指揮命令下におかれる時間をいい、例えば以下の労働時間に該当する。

  - ①使用者の指示により、就業を命じられた業務に必要な準備行為や業務終了後の業務に関連した後始末を事業場内において行った時間
  - ②使用者の指示があった場合には即時に業務従事することを求められており、労働から離れることが保障されていない状態で待機している時間（手待時間）
  - ③参加することが業務上義務付けられている研修・教育訓練の受講や、使用者の指示により業務に必要な学習等を行っていた時間

## 「働き方改革」への取組の背景と課題

働き方改革とは、一言で言えば「一億総活躍社会を実現するための改革」と言えます。

一億総活躍社会とは、少子高齢化が進む中でも「50年後も人口一億人を維持し、職場・家庭・地域で誰しものが活躍できる社会」です。働き方改革は、一億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジ、多様な働き方を可能とするとともに、中間層の厚みを増しつつ、格差の固定化を回避し、成長と分配の好循環を実現するため、働く人の立場・視点で取り組んでいくというものです。

### ●働き方改革の背景

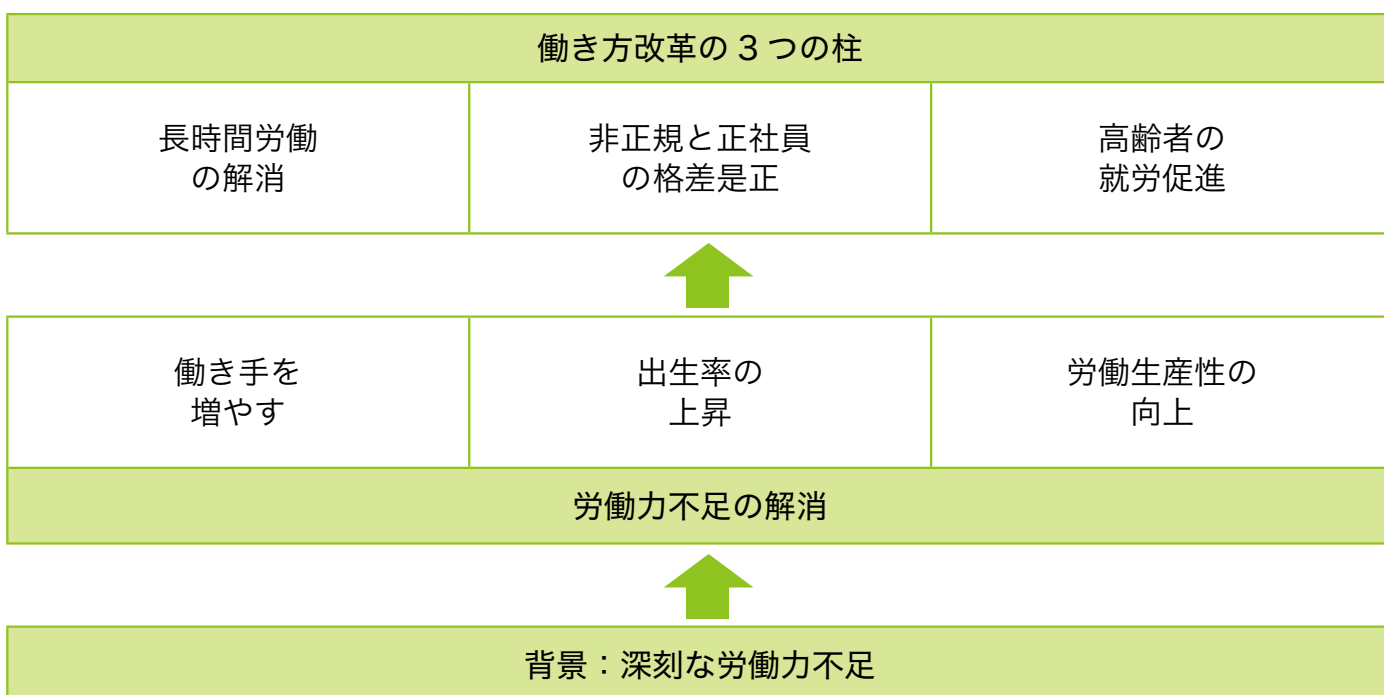
#### ・労働力人口が想定以上に減少

今、一億総活躍社会を目標に掲げた背景には「生産年齢人口が総人口を上回るペースで減少していること」が挙げられます。労働力の主力となる生産年齢人口(15～64歳)が想定以上のペースで減少しているわけです。

内閣府が発表している、日本の将来人口推移によりますと、現在の人口増加・減少率のままでは、2050年には総人口9,000万人前後、2,105年には4,500万人まで減少すると言われていています。また、実際に働き手となる「労働力人口」は、第二次ベビーブームに生まれた団塊ジュニアが労働力として加わった24年前がピークで、1995年には8,000万人を超えていましたが、それ以降は減少の一途をたどっています。2027年には7,000万人、2051年には5,000万人を割る見込みで、このままでは、国全体の生産力低下・国力の低下は避けられないとして、内閣が本格的に「働き方改革」に乗り出したということです。

### ●働き方改革の3つの課題

働き方改革を実現するための課題との関連図を下記に示します。





事務局からのお知らせ

## 「みやぎソフトウェアカタログ」のご紹介

企画運営委員会では、MISA会員企業が保有するソフトウェアパッケージを収録した「みやぎソフトウェアカタログ～ソフトウェア選定の手引き～」(第一版9月)を発行しました。

本冊子は、「MISA会員企業が協力して、IT利活用に取組もうとしているユーザー企業を支援する」ことを目的に作成したもので、会員企業が保有する32製品について、「どのような課題を解決できるのか、どのような効果が期待できるのか」等について統一したフォーマットで紹介しています。

「ITを活用して業務改善を図りたい、課題解決に取り組みたい」というユーザー企業の方々、それを支援するベンダー企業の方々に有効な情報を満載しておりますのでご活用ください。

なお、冊子はMISA事務局で保管していますので、必要な場合はご連絡願います。

# みやぎ ソフトウェア カタログ

ソフトウェア選定の手引き

第一版

平成29年9月

MISA

一般社団法人宮城県情報サービス産業協会  
Miyagi Information Service Industry Association

トイックス  
**TOINX**  
ITで、感動を、ともに。

## 委員会報告

## — MISA「『ソフトウェア開発』体験インターンシップ」の実施 —

人財  
確保推進  
委員会

人財確保推進委員会では、「産学協同実践的IT教育+インターンシップ事業」として、去る8月18日（金）～29日（火）の8日間、宮城県内の大学・専門学校の3年生を対象に、平成29年度の学生インターンシップを実施致しました。今年度は名称をより明確な「『ソフトウェア開発』体験インターンシップ」に改め、5校・35名と多くの学生を集めSEの実務体験を行いました。

本インターンシップでは、学生にチームで開発課題に取り組んで頂き、実務の流れやコミュニケーションの大切さなどを把握して頂くことを目的と致しました。また、MISA会員企業5社のご協力を得て「業界研究会」も開催致しました。参加学生は全体的にIT業界への知識が浅いようでしたが、本インターンシップ体験後には、就職活動の情報収集へ向け視野が広がり有益だったとの感想が多く寄せられました。

本インターンシップの成果発表会は、来たる11月9日（木）、東北電子専門学校3階視聴覚ホールにて開催する予定となっております。こちらは一般のご来観が可能となっておりますので是非とも足をお運び頂ければ幸いです。



## 委員会報告

## 第12回MISA会長杯フットサル夏大会

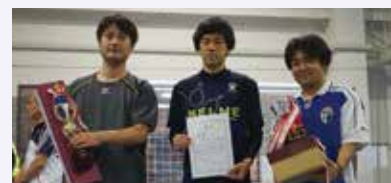
福利厚生  
委員会

第12回MISA会長杯フットサル夏大会が7月8日（土曜日）、リベラ鶴巻さんで開催されました。

前回大会から引き続き、オープンクラス、ビギナークラスに加え、フットサル初心者でも楽しめるようスーパービギナークラスと3つのカテゴリーに分け、24チーム約260名の参加となりました。

試合のほうは、3カテゴリーとも白熱した試合が繰り広げられ、オープンでは東北インフォメーション・システムズさんがPK戦の末、優勝。古豪復活を印象付けました。ビギナーはコンピューターマネージメントさんが悲願の初優勝。スーパービギナーはテクノ・マインドさんが圧倒的な攻撃力を見せつけ優勝となりました。

2018年度も同じリベラ鶴巻さんで開催します。ご参加方宜しくお願い致します。



## オープンクラス結果

優勝：東北インフォメーション・システムズ（株）  
準優勝：（株）アート・システム  
3位：（株）NID 東北  
（株）SRA 東北  
コンソレーション優勝：富士通エフ・アイ・ピー（株）

## ビギナークラス結果

優勝：コンピューターマネージメント（株）  
準優勝：サイバーコム（株）  
3位：（株）NTT データ東北  
NECソリューションイノベータ（株）東北支社  
コンソレーション優勝：（株）ステップ

## スーパービギナークラス結果

優勝：テクノ・マインド（株）  
準優勝：（株）クロスキャット  
3位：（株）Minori ソリューションズ  
（株）東日本技術研究所  
コンソレーション優勝：（株）日進サイエンティア





## 委員会報告

## カレイ釣り大会in塩釜沖大型漁礁

福利厚生  
委員会

6月24日(土)に『MISA主催:カレイ釣り大会in塩釜沖大型漁礁』を開催いたしました。

当日の天気は、乗船時から良い天気に恵まれての絶好の釣り日和でした。

参加者19名は、毎回お世話になっている塩釜の「えびす屋さん」の強面船頭(我妻)さんと共に漁場へ。

前半戦から後半戦まで皆さんがそれなりの良型が釣れた良い大会となりました。

そして!今回の優勝者は、常連のトライアロー株式会社の菊地弘毅様でございました。

おめでとうございます!

## 【成績】(敬称略)

優勝: 51.5cm	菊地 弘毅 様	トライアロー (株)
準優勝: 51cm	金野 英一 様	トライアロー (株)
3位: 46.2cm	菊地 英二 様	トライアロー (株)
えびす屋賞 44.4cm	菅原 和也 様	トライアロー (株)



## 委員会報告

## 第32回MISA親睦ゴルフ大会

経営  
委員会

■開催日:平成29年4月15日(土)

■場 所:「仙台クラシックゴルフ倶楽部」

第32回MISA親睦ゴルフ大会は、宮城の名門「仙台クラシックゴルフ倶楽部」で開催しました。屈指の難コースに14組54名が参加し、日頃の腕前を競い合い和気あいあいと会員間の親睦を深めるゴルフ大会となりました。

## 【成績】(敬称略)

	NET	HC	
優勝:	小野寺満明 (71.8)	(13.2)	(株)システムロード
準優勝:	菊田 明洋 (72.6)	(14.4)	(株)ソフトエイジ
第3位:	佐々木 勇 (72.6)	(10.4)	(株)カーム
第4位:	小野寺伸晃 (72.8)	(7.2)	(株)ブレイド (ベストグロス)
第5位:	菅野 直 (72.8)	(13.2)	パイスリーブプロジェクト(株)



## 委員会報告

## MISA × JASIPA Global Business合同委員会

グローバル  
ビジネス  
委員会

MISAグローバルビジネス委員会とNPO法人JASIPA（日本システムインテグレーションパートナーズアソシエーション）同委員会の合同会議を開催しました。

JASIPAメンバー7名と早坂会長をはじめ総勢16名参加のもと活気ある内容となりました。

両委員会の方針・活動実績などの紹介や、各社の海外事業の事例発表等を行い今後の協力体制について協議し、両委員会は今後積極的に連携して活動に取り組むことを合意しました。



## &lt;開催日&gt;

平成29年8月25日（金）15：00～17：30

## &lt;会場&gt;

TOiNX様第1、第2会議室

（仙台市青葉区一番町四丁目1番25号 東二番丁スクエア2階）

## &lt;事例発表&gt;

- FreeBusiness Incubator 白井様
- (株) さくらコミュニケーション 桑村様
- (株) インフォテクト 村田様/PerlaMae Ledesma様
- (株) ラネックス 小林委員長
- (株) Sola.com 高橋様

## 委員会報告

## 「芋煮ケーション2017」開催のお知らせ

グローバル  
ビジネス  
委員会

昨年に引き続き、今年も「芋煮ケーション」を開催します！

芋煮ケーションとは、「芋煮で出会う自分未来」をコンセプトとして、学生と企業の経営者や採用担当が芋煮・BBQを通してコミュニケーションを図り、会社説明会などでは聞けないような本音を交わせる新しい形の就活イベントです。

また、お昼前にはICT業界の魅力を発信するセミナーを行います。学生だけではなく企業の皆様にも満足頂ける内容となっております。

昨年の「芋煮ケーション2016」では、参加企業様から「芋煮ケーションで会った学生がインターンと採用面接に応募してきた」との声を頂きました。

さらに今年からは主催が「カンファレンス委員会」から「グローバルビジネス委員会」に変更となったことより、「グローバル化」をテーマに留学生や海外展開企業の参加も多数見込まれておりますので、国際交流の場としてもご活用頂けます。是非ご参加ください！







会員企業

NEW

技術情報 Part2



## SMART DEVICEから始まる 無限の可能性

アイエスピー東北は2011年に設立した会社です。  
IoT関連に精通したソリューションの提供を  
主として様々な分野で活躍しています。



### IoT/M2Mをトータルでプロデュース

デバイスメーカー、大学のシーズを具現化する技術チームを形成しており、新規事業の立ち上げからコンサルティングを行っております。組み込みからコンテンツ開発、サービス提供までトータルでコーディネートできる技術力を保有しています。

### 得意な通信分野

モバイル端末の開発経験が多く、特に通信スタックの開発では、アイ・エス・ビーグループでは日本発の世界標準無線通信規格「Wi-SUN」の開発において、国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT) から技術移転実施しており、センシングデバイスを始め、情報収集後のセンシングデータの分析、見える化を実現するプラットフォームとなるクラウドサービス「datasamplr」を提供しており、大学からデバイスメーカー様まで、幅広く活用されております。



### 空間をセンシング



センシング情報を時間軸で立体に可視化することで、人や物の動線を得る事ができます。例えば店舗でのお客様の動き、興味のある場所での留まりなど、売上に直結する気付きが得られます。弊社ではセンシング情報の蓄積実績が豊富にあり、お客様ニーズから最適なソリューションを提案致します。デバイスのコモディティ化が進んでいる中、開発コストを抑え効率の良い提案を致します。

## 新入会員紹介 (平成29年5月1日以降の入会)

正会員-入会 賛助会員-入会

会員数 (正会員・・・157社 賛助会員・・・56社)

入会日	会員名 (代表者名)	住 所 TEL・FAX
7月10日	コンピューターサイエンス(株) (代表取締役社長 安田 秀敏)	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10 仙台本町ビル6F TEL 022-797-1141 FAX 022-797-1147
8月2日	(株)第一コンピュータリソース (東日本事業本部長 赤畑 俊一)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-16-23 一番町スクエア7F TEL 022-748-7177 FAX 022-748-7144
5月11日	(公財)仙台市産業振興事業団 (理事長 山本 和茂)	〒980-6107 仙台市青葉区中央1-3-1 AER 7F TEL 022-724-1212 FAX 022-715-8205
6月9日	(株)電子工学センター (システム東北 鈴木 幹直)	〒983-0867 仙台市宮城野区鉄砲町東3-23 スパシアス鉄砲町東405 TEL 022-352-4606 FAX 022-352-4607
9月11日	(特非)宮城県キャリアコンサルタント協会 (理事長 高橋 伸也)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-3 仙台市民活動サポートセンター7F TEL 070-3190-7899
9月12日	(株)Sola.com (代表取締役 高橋 洋人)	〒980-0814 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2F西 TEL 022-226-7025 FAX 022-774-2153

(敬称略)

MISAでは、ホームページ・Facebookページより情報発信を行っています。是非ご覧ください！

### MISA ホームページ



ホームページURL <http://misa.or.jp/>

### MISA Facebookページ



FacebookページURL <https://www.facebook.com/miyagi.misa>

## MISA フォトコンテスト結果報告

MISA 会報 42 号フォトコンテストに、会員企業の 16 名の方より 35 作品のご応募をいただきました。MISA 事務局と広報委員会の投票による選考結果でグランプリと準グランプリが決定いたしました。グランプリ作品 1 点には商品券、準グランプリ作品 2 点と佳作 8 点には QUO カードがそれぞれ贈呈されます。

グランプリ

表紙に  
掲載

「錦秋の鳴子峡と陸羽東線」(株) 仙台ソフトウェアセンター 高橋 純司 様

準グランプリ

「瑞鳳殿の七夕」

(株) 日進サイエンティア 伊藤 尚貴 様



準グランプリ

「滝と黒猫」

サイバーコム (株) 佐々木 孝一郎 様

